

「三重県企業庁の経営に関する懇談会」の開催結果（概要）

1 日 時 平成22年2月2日（火）14時00分から16時40分まで

2 場 所 北勢水道事務所 2階 第1会議室（四日市市安島）

3 出席者

（1）懇談会構成員（五十音順）

- ・金津 治人（コスモ石油㈱四日市製油所 総務課長）
- ・重山 裕典（ヴァーレ・インコ・ジャパン㈱松阪工場 業務部長）
- ・塚田 博（四日市市上下水道事業管理者）
- ・豊田由紀美（Y's建築設計事務所 代表）
- ・中川千恵子（㈱中川製作所 取締役会長）

（2）事務局

- ・企業庁長、経営分野総括室長、事業分野総括室長、電気事業対策総括推進監兼RDF発電特命監、企業総務室長、財務管理室長、危機・事業管理特命監、北勢水道事務所長 他

4 内容

（1）事業の実施状況等の説明

- ・昨年度の「懇談会」でのご意見と企業庁の考え方
- ・水道、工業用水道事業の実施状況
- ・電気事業の実施状況
- ・20年度の決算状況
- ・包括的な民間委託の推進
- ・北勢水道事務所統括運転監視業務の実施状況

（2）意見交換

5 主なご意見

- ・浄水場等における技術管理業務の包括的な民間委託について、コスト削減等の観点から進める必要があるが、職員の専門的な知識・経験をいかにして継承していくかが課題となる。「安全・安定」供給に支障が出ないように対応を進めてほしい。
- ・浄水場等における技術管理業務の包括的な民間委託については、余程の技術力がないと対応できない。受託者の選定時には、厳しい基準を設ける必要がある。
- ・民間委託を進めるにあたっては、民間委託した場合のリスクの発生頻度・影響度合い、民間企業の技術力などから総合的に検証していく必要がある。結果として、全て民間に委託する必要はないとの考え方があっても良いのではないかと。

- ・民間委託については、ISO9001品質管理マネジメントシステムを活用し、業務のマニュアル化・標準化を行い、段階的に官から民への流れを進めてほしい。
- ・志摩水道の市水道事業への一元化について、一元化の推進が、水道代の引き上げに繋がらないか心配である。
- ・水道の「安全・安定」供給には耐震化・老朽劣化対策は欠かせない。今後の経営見通しを踏まえ、施設改良を計画的に進めてほしい。
- ・工業用水道事業について、給水能力に対して契約水量が一杯となっている給水区域があるが、受水企業から、工業用水の増量要望があれば、対応をお願いしたい。
- ・RDF焼却・発電事業の売電単価についても、単に焼却処理されていた「ごみ」を有効利用するとの観点から、売電価格引き上げの働きかけをしても良いのではないか。